

オホーツクの研究活動

研修部長 北見市立常呂中学校
校長 杉 浦 潤

1. はじめに

オホーツク管内小中学校長会は、全国・全道の校長研究大会との連携を図りながら、諸先輩が築いてきた研究成果を継承し、時代が目指す教育改革を遂行するため、積極的に研究活動を進めてきた。今年度より新たな研究主題を設定し、3か年計画をスタートさせたところである。研修体制も新たに見直し、オホーツクの大地に根差しつつ、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む学校の創造を目指す校長の在り方を求め、研究を推進する。



2. 研究計画

(1) 研究主題

「確かな学びの力を育み新たな知を拓くオホーツクの子の育成を目指す学校教育の推進」
～オホーツクの大地から世界を見つめ新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育む学校教育の推進～

(2) 方針

- ① 全連小・全日中・道小・道中の各教育研究大会への参加を呼びかけるとともに、各研究大会との連携を図りながらオホーツク管内の教育課題解明のための教育実践活動の推進に努める。
- ② 新たな研修計画の下、第42回オホーツク管内小中学校長教育研究大会の成功を期して課題解明と実践活動を推進する。また各ブロック研修会の充実を図る。
- ③ 幅広く関係機関との連携を図り学校経営充実の研究推進と校長としての職能向上に努める。

(3) 研究課題（管内研究大会分科会と同様）

① 学校経営・現職教育（第一分科会）

- ア 創意と活力に満ちた学校経営ビジョンと校長の在り方
- イ 学校経営ビジョンの実現と活力ある組織づくりにおける校長の在り方
- ウ 教育改革を進める学校づくりと評価における校長の在り方
- エ 教職員の人間性と専門性を高め、意識改革を促す現職教育と校長の在り方

② 教育課程（第二分科会）

- ア 知性・創造性を育む教育課程の編成と校長の在り方
- イ 豊かな人間性を育む教育課程の編成と校長の在り方
- ウ 社会形成能力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方

③ 危機管理・連携協力（第三分科会）

- ア 命を守る安全教育の推進と校長の在り方
- イ いじめや不登校を生まない学校づくりの推進と校長の在り方
- ウ 家庭・地域と連携し社会に貢献する学校づくりの推進と校長の在り方
- エ 幼保・小・中・高等との連携と円滑な接続のための組織づくりの推進と校長の在り方

④ 教育課題（第四分科会）

- ア 学力向上・豊かな心の育成・体力向上を目指す教育活動の推進と校長の在り方

3. 研究の概要・研究活動

(1) 第42回オホーツク管内小中学校長研究大会の概要

- ① 期 日 平成26年8月22日（金）
- ② 会 場 北見市 ホテル黒部
- ③ 研究協議 4分科会、各3グループに分かれてグループ協議
- ④ 講 話 『管内教育の充実に向けて』
講 師 北海道教育庁オホーツク教育局長 田中 宣行 様

(2) ブロック研究大会（5ブロック）

- ① 網走ブロック校長研修会（網走市・斜里町・清里町・小清水町・大空町）
 - ア 期 日 平成26年7月29日（火）
 - イ 会 場 斜里町 斜里夢ホール知床
 - ウ 研究協議
 - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導監 大山 稔彦 様
- ② 北見郡部ブロック研修会（置戸町・訓子府町・津別町・美幌町）
 - ア 期 日 平成26年7月25日（金）
 - イ 会 場 津別町 津別町林業研修センター
 - ウ 研究協議
 - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局教育支援課長 佐藤 潤一 様
- ③ 北見市ブロック研修会（北見市）
 - ア 期 日 平成26年7月28日（月）
 - イ 会 場 北見市・端野総合支所
 - ウ 研究協議
 - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局教育支援課長 佐藤 潤一 様
- ④ 遠軽ブロック研修会（遠軽町・湧別町・佐呂間町）
 - ア 期 日 平成26年7月28日（月）
 - イ 会 場 遠軽町 ホテル・サンシャイン
 - ウ 研究協議
 - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導監 大山 稔彦 様
- ⑤ 紋別ブロック研修会（紋別市・興部町・雄武町・滝上町・西興部村）
 - ア 期 日 平成26年7月25日（金）
 - イ 会 場 紋別市 紋別市博物館&紋別市文化センター
 - ウ 研究協議
 - エ 講演講師 北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導監 大山 稔彦 様

4. おわりに

オホーツク管内小中学校長会は、今年度大きな転換期を迎えた。統廃合が進む本管内では学校数すなわち校長人数が大きく減っており、今までの管内校長会組織や管内研究組織を見直した。また、平成25年度をもって前研究主題の3カ年計画を終え、新たな研究主題でのスタートを切ることとなった。昨年同様に「学力向上」の取組を各ブロックで交流・検討するとともに、「体力向上プラン」の取組についての交流も行い、お互いを刺激し合い、確かな前進をみることができた。



管内研究大会 7.22

グループ協議の様子